

【女性センター】

市民： 4ページの動線の部分について、真ん中に通りができて使いやすいと思うが、真ん中に駐輪場があり、自転車の通り抜けはできるのか。通勤で自転車を使っているのもこの間を抜けていってよいのかどうか教えてほしい。

市： 駐輪場は、通り庭の西側と北側、それと外周の2箇所にも設けようと計画し、通り庭の真ん中の部分を広く開放的な空間にしたいと思っている。自転車の通行に関しては色々と課題もあり、歩行者との動線の分離や、スピードが出てぶつかってしまうなどの安全性の問題がある。設計上の設えや運用面で乗り降りを制限することなど、まだ決まっていないが、課題として捉えている。

市民： 「おもや」と「はなれ」という形で、そうなった理由は現庁舎をいかしながら、後ろに建てるということが主な理由だと思うが、離れているこういう構成だと、どうしても後々のメンテナンスなどが心配である。全体としてこういう計画にすることが費用的に妥当かどうかという説明がもっとあったほうがいいかなと思う。つまり、仮庁舎をつくらず既存の庁舎を残したまま建設し、それにもまして多少メンテナンス費用がかかったとしても、それでもこの案が良いという説明なり、資料なりがもらえないかということだがどうか。

市： 2棟構成になった理由については、おっしゃられるとおりで、仮設庁舎を必要としない手法として、北側の敷地に「おもや」を建てて既存庁舎から移転をして、それから分散している部署を集約して「はなれ」を建てるというもので、適宜ブリッジや地下の駐車場はつなげて1棟の構成とするものである。

この建物構成にした動機や理由について、千葉学建築計画事務所 久米設計 設計共同体という設計者に委託して設計を進めているが、選定の際には、公募型プロポーザル方式で、府中市庁舎建設基本計画で掲げる方針・理念に沿って府中駅、府中本町駅をつなぐなどの点を踏まえた、技術的な提案をもらい選定をした。33社参加いただいたが、その中には仮設庁舎をつくる提案もあり、仮設をつくらない提案でも建物の配置はそれぞれで異なっていた。選定は有識者で構成する選定委員会が行ったが、いろいろな議論がされ、低層に抑えつつ仮設庁舎をつくらない今回の設計者の提案が最も優秀という選定に至った。その後、この提案をベースとして市と協議し、建物の形も変わってはいるが、今回お示しした形が最適であろうということで、このような形でまとめている。

1棟の場合のメンテナンス費用を今回の案と比較することについては、資料として持ち合わせていない。これは1棟であった場合、どういう仮定とするのか、その1棟とはどういう条件になるのか、一概には申し上げられないと思う。

実施設計が終わった段階での長期的な維持管理費用、ライフサイクルコストを試算する予定だが、質問いただいたそういう費用の比較は技術的には難

しいと考えている。

市民： 2 ページの計画概要の説明で理解できなかった。基礎形式が杭になったと説明があったと思うが、ボーリングデータが良かったとの話もあり、杭になる話とのつながりが良く分からなかったので、説明してほしい。

市： 当初は直接基礎を想定していたという説明をしたが、これは設計者を選定する際に、設計共同体からは過去のデータを見ると直接基礎が良いのではないかと提案があったものである。プロポーザル時には既存庁舎で実施した地盤調査の調査結果を示しており、この結果をみると建物の基礎がのる部分が、地層がしっかりとした堅い支持層という部分に当たり、建物ののっかる部分が支持層とちょうどよくマッチしてのっていた。そのため、直接基礎でやる方向で進めていたが、限られた部分の調査結果だったため、設計と同時並行で地盤調査を行い、複数の箇所に範囲を広げて実施したところ、他の部分では支持層が浅い部分にあるところが判明したものである。

市民： 深い部分にあった、ではないのか。

市： 「浅かった」である。建物を建築すると、建物の基礎の部分が支持層を突き抜けて越えてしまい、次のもっと深い支持層を探さなければいけないという結果だった。これは敷地の一部だが、場合によっては異種基礎という方式も考えられなくはないが、そういう状況を勘案して今回は杭基礎形式を採用した。

市民： 分かった。

市民： どこまで予算が伸びても市長はオッケーといっているのか。30億か40億か伸びていると思うが、こうなりました、はいどうぞ、というわけにはいかないと思う。この規模で40億伸びたら、それはもう誤差の範囲ではない。そもそもの話で、どこまで良いと言われているのか聞かせてほしい。自分の家をつくる時には考えられないと思う。我が家をつくる時にこんなに予算が上がるのでは変えてくださいと言わざるを得ないのではないかと思う。

資料を作って説明をしてもらって、今こうなっていますというのは、資料を読めば分かると思うが、なぜそうなったのか、ということが全然分からない。当初分棟にするということはコストが上がることは分かっていたので、それを選んだ委員長が責任をもってフォローしてほしい。これはコストが上がるが、良いですよ、と説明してもらえれば、我々もああそうかとなる。多少増えても我が家を何十年も使うからしょうがないかという人もいるとは思っている。私の感覚では通らないんじゃないかと思う。

あとは、このプロジェクトを進めているほかに、設計者が千葉なんかで他に関わっている人は多いと思うが、業務分担なり、仕事の分担なり、複雑な組織になっているんじゃないかと思う。そういったことも我々は興味がある。説明会の場に、設計事務所がないと設計の顔、建築の顔がさっぱり見えてこない。我々はキャッチボールがしたい。これだけの我が家をつくるんだから、そういうことをききたいという気持ちがあるけど、そのへんが伝わってこない。是非、選んだ委員長も責任をもってもらいた

い。

配置図で未確定用地みたいな食い込んでいるところがあるが、ここはどうしようとしているのか。

15ページに再生可能エネルギーとあるが、全体の何%になり、何%を目標にしているか。市長にはどこを目標とするように言われているのか、現状どれくらいになるのか。地中熱はないと太陽熱もないようだが、どれくらいになるのか。

3・10・19ページにパースがあるが、これがどういうふうになるのか説明してほしい。市庁舎というか研究所のようなデザインだが、材料もこんなものを使って良いのかと個人的には思う。

個々のプランは説明があったが、それによりどういう場所が生まれて、我々としてどういう利用ができますよという説明があると、ああそうかとなる。今は基本設計だが、市と設計さんが話しているなかでは、どういうものをつくるという話をしているんだと思うが、市民に提供する家がこうなるんですよということが知りたい。

今後の予定について、今後はこの内容をベースにしてどのようにしていくということを市民説明会で説明してほしい。我が家の設計なので、お願いしている建築家の顔が見えないし、これまでの説明会で出た市民の意見をどのように取り入れているかなどのお話をしてもらいたい。基本設計はこうなっています、という説明の仕方であるため、ああそうですかと言うしかないというのが感想である。こういう意見を関係者で共有してもらいたいが、今答えられることがあったら答えてほしい。

こんなに大変な資料を作ってもらったのはありがたくて感謝するが、ピントのあった資料とピントのあった説明があればもっと少なくて良いのではないかというのが私の感想である。

市： 市長の考え方に関して、先ほどの説明のとおり、いくつか理由も説明したが、基本計画で定めていた概算事業費より、全体として27.9億円上がっている状況である。これは設計者が決まり、新庁舎の具体的な姿が見えてきて、その実態にあった概算事業費というものを設計者と協議してこういう結果になっている。市長へもその内容について説明したが、いくらになってもつくるという青天井という感覚では当然ない。そういうことにならないように、できるかどうかを検討しながら、今後実施設計を進めるが、そこでコストがあがるのかどうかを市長を含めて内部的に精査して市議会への報告を今後もしていきたい。当然市の財政に関わってくるため、財政部門と協議しながら、将来展望、将来の財政予測も考えながら市としての考えも適宜示させていただくことに今後もある。

また、設計者の顔が見えないというこの説明会の進め方についてご意見をいただいたので、今後の実施設計の完成したときなど、機会をとらえて、検討していきたいと思う。以前設計者が決まったときには、選定委員会の委員長や設計共同体の代表者、市長を含めてルミエール府中でシンポジウムを開催したが、そういう形になるかは分からないが、関係者の顔が見える場というのを考えていきたい。

市民： 組織についての資料はないのか。

市： 本日はない。

市民： パースや材料のことは教科書みたいに書いてあるが、どこから見たではなく、どうなるのかを説明してほしい。

市： 設計者とは協議を重ねているが、基本となるのは私どもが目指す庁舎像になる。庁舎3つの柱や4の方針があり、府中駅と府中本町駅のにぎわいをつなぐ庁舎、市民と市の協働を支える庁舎、歴史あるまち、魅力あるまちを発信する庁舎など、これを踏まえて設計者としてはこの4つの基本方針を掲げて取り組んでいる。何がどう顕在するか、具体化するかについて、まず、真ん中の通り庭を建替計画と合理的につくる、つまり、建替のプロセスとにぎわいをつなぐ新しい動線をつくることを両方、合理的に考えてこのような建物の配置計画になっており、このような通り庭をつくるということが設計者の思想である。この合理的に生み出された通り庭では、例えば、一部を防災広場として活用ができる、あるいは、この通り庭が人の賑わいをつくる、また、大国魂神社との緑の連続性ができるのではないかという考えとなっており、このイメージパースにはその願いとして人が沢山載っている。このように人が行き来して、市役所に用がなくても道すがら気持ち良く動線として使えるということがある。

また、設計者と協議して良く話していることとして、建物がメインとして府中市を表すのではなく、府中市の最大の魅力として、そこで活動する人々の表情であったり、その人の流れであったりというものを対外的に残していきたいと考えている。そういう発想で今回のような構成、設計をしている。また、この庁舎を通る時の建物内の人の動き、というものも極力見えるようにしたいと考えている。有孔パネルは穴のあいた鋼板で囲い、しっかりと中が見れるわけではないが、そこに人がいて動いて、活動していることが見える。あるいは、建物の中から外の通り庭を歩く人やイベント時の人の動き、活動が見え、こうした人々の動きが府中の最大の魅力ではないか、という思想で設計者は通り庭や有孔パネルという日射を遮りつつ、人の姿は見えるというような意図を持って設計をしている。このようなことを基本方針では府中の魅力を象徴する、まち、自然と一体になった庁舎ということで、記載のような表現をしている。

敷地の関係について、この府中街道沿いに面する真ん中の敷地については、今も引続き庁舎の敷地として整形・四角にしたいということで取り組んでいる。これは相手の方があることなので、なかなか申し上げられないが、この部分は市役所の土地ではなく、民間の方が持っている土地になる。ここを庁舎の敷地として必要であることを説明して、引続き交渉を行っているが、設計としては取得の見込みが立たないということで、このような形で計画を進めている。

市民： 当初はそういう部分はなく、四角になるということで説明を聞いていたし、設計者選定の時もそうだったと思う。見込みが立たないから良いということではなく、もしこれを取得したらどうなる、ということがないといけない。自分の家の隣の土地が売りに出たら買おうと思っても、

とりあえず今はこうしておくというものが無いと、何かあるんじゃないかと思う。役所だから見込みが立たないとなんとも言えない、説明できないところがあることは理解できるが、せつかくの市民説明会なので、我々にもそういう話があっても良いのではないかというのが私の感想である。

この案が良かったので、なんとか実現したいと設計者と市長と、あるいは行政の皆さんも、そういう話ではないのではないかと。設計者がこう言っているからこうするのではなくて、設計者から提案があったから一緒に考えて、これが良いということにするものである。分棟にして複雑にしてコストが上がるが、こういう方が市民も良いと思うので、市長も良いと言いましたという話ではないのか。議会答弁を聞いているのではないので、言えないということも分かるが、言えなければ市民説明会にならないのではないかと。

市民： 今の意見もその通りだと思う。積極的にこれが良いという理由、例えば、今地上6階建てだが、これを10階で1棟にしたら駄目なのか。低層だという前提で判断したという説明があったが、仮に10階くらいで、比較検討したものがあつたら分かりやすいのではないかと。それからライフサイクルコスト、将来に必要な経費があつて、これにしましたというのがないと、皆さん理解しにくいのではないかと。私も皆から聞かれるので理解しておきたい。

市： 先ほどの方と今の方から、ライフサイクルコストの話があつたが、こちらについては、先ほど環境計画で説明をしたが、再生可能エネルギーと自然エネルギーの効率的な活用をしていくということで、今基本設計の段階でお示しをしている。今後、実施設計において詳細を明らかにして、今後お示しができるように考えている。

市民： 今何%なのか。

市： 今現在で示せる数字はない。

市民： 府中駅と府中本町駅のにぎわいをつなぐ庁舎とあるが、今市役所が何時に始まるか知らないが、昼間の9時から夕方5時だと思うが、できれば朝の4時くらいから夜まで通り抜けられるようにしてもらえるとありがたいが、できるか。雨に濡れないで通れることはできるか。

市： 通り庭については屋外になっているため、この部分の屋根というものはないが、一部はブリッジがおもやとはなれの間にかかっているため、この下は濡れずに移動できる。また、はなれの点線部分にはなるが、ここは軒下になっていて、天候が悪いときはこの建物際を歩けるように考えている。時間については運用のことになるが、何時から何時に通れる、あるいは深夜にどう止めるかなどはまだ決まっていなため、これから色々な意見を伺っていきながら決めていきたいと思う。防犯や自転車のことなどもあるので、これからの検討となる。

市民： 酔っ払いとしては24時間通してほしいが、西庁舎が昭和34年とあつて、地震に対して危険性があるとなっているが、東庁舎と北庁舎には危険性はないのか。

市： 耐震の診断をして判明したことだが、その結果では昭和34年度に建て

た西庁舎については耐震性能が確保できないということで話をしている。東庁舎についても耐震診断の結果として、一部確保できていない部分があることが判明している。北庁舎については、新耐震で設計をしているということで問題ないと考えている。そのため、危険性ということでは、西庁舎だけではないと考えている。

市民： 西庁舎については現在多摩地域で最も古い庁舎となっていますとあるが他の島とか23区内はどうなっているのか。また、多摩地域で2番目に古い庁舎はどこなのか。

市： 島や区については把握していないが、同じくらい古いところは、小金井市の庁舎と聞いている。小金井市の庁舎は分棟となっているが、その一部が古くなっている。

市民： 何年なのか。

市： 確か2～3年の前後があったかと記憶している。

市民： 23区内ではどうか。

市： 23区についても資料としては持ち合わせていない。

市民： 21ページの概算費用の説明で、増額の要因についても一度説明してほしい。

市： 増額の要因として、主要なところでは5点あり、1つ目が、来庁者駐車場を地下に整備したことによる床面積の増、2つ目が、近隣の方や来庁者に配慮した工事期間中における防音パネルの設置や屋外機の消音対策、3つ目が、基礎形式を杭基礎に変更した計画の見直し、4つ目が、建設資材、労務単価の上昇、5つ目が、既存庁舎のアスベストの除去及び処分、となっている。

市民： これは大切なことなので、詳細設計が進んで明確になった場合には、資料として明確に説明したほうがよいのではないかと思う。上がるのは仕方ないとして、しっかりと説明をしたら良いのではないかと思う。

あとそれに付随して、消費税10%を見込んでいるとあるが、この表示されている金額は含んでいないということか。

市： 含んだ金額である。

市民： 埋蔵文化財発掘調査費用等については別枠だということではなく、何らかの形で、明確な数値を説明する必要があると思う。

また、細かい話になるが、震災時の非常用の設備などについて詳しく書いてあり、しっかりと検討がされているんだと思うが、機械室が6階に設置されるということで、非常用発電設備、ディーゼルなども6階に置くということか。

市： 埋蔵文化財調査の調査経費については、これから分かった範囲で、できる限り説明していきたいと思う。こういう表現としているのは、埋蔵文化財調査は性質上、掘ってみないとその範囲、費用が明確にならないということがあるため、調査をして見込みが立つということであればできる限り説明をしていきたいと思う。

2点目の非常用発電設備に関して、非常用発電の装置については6階に発電機室を設け、その中に設置をする。ただ、燃料となるタンクについて

は地下に設け、ポンプによって圧送する形式を予定している。

市民： 非常事態ではどうなるか。府中は地盤が固いので比較的安定ではないかとは思いますが、燃料と機械本体が離れていてポンプアップする前提だと、それが本当に機能できるかどうか、検討したほうが良いと思う。5階にディーゼルを持っていくのも良いが、震災想定でどのくらい水面が上がるのかも考えると、庁舎周辺は水がくるエリアなのかということを考えて場合、ディーゼルの機械があるのが6階にあることが良いのかどうかをもう少し考える余地があれば検討したほうが良いと思う。電源が3日分で用意されているが、3日で回復する可能性がなかったときに、庁舎としての機能を維持するためには非常用発電設備として最低限の設備がないといけないので、そのへんの工夫をもう少ししたほうが良いのではないかと思う

市： いただいた意見も真摯に受け止めて設計者と引続き協議したいと思う。防災計画の電源のことで、補足で説明をする。12ページの設備の部分になるが、蓄えておく燃料は限度があるため、72時間自立的に稼働することを想定している。そのため、発災時から3日までは自立的に発電し、3日を過ぎる頃には燃料の補給が見込め、補給によりその後も自立的に発電できるという計画にしている。電源については、バックアップとしてどのエリアに何%の電気を供給するかという設定をしている。例えば、今の庁舎ではオンとオフしかできないものを、あらかじめエリアを設定しておくことによって、状況に応じてより細く長く電気を供給する仕組みとすることが可能となる計画としている。

市： 非常用電源を上にした経緯について、市役所がある場所は多摩川に近いということでもないので、ハザードマップでは浸水のおそれのある場所ではないが、近年ゲリラ豪雨など想定を越える雨の量、また、最近あった鬼怒川の洪水などのことも考えると、安全をみておく必要があるのではないかという検討があった。大きな雨が降ったとしてもしっかりと下水に流すこともしっかりと計画はしているが、それを越える何かがあった場合に、水没、あるいは浸水してしまうということを考えて、やはり上に置いておいたほうが良いということである。下から燃料をポンプアップする計画ではあるが、仮に下からポンプアップできなくなってしまう場合についても今後しっかりと検討したうえで、災害時に備えたいと思う。

市民： わかった。6階じゃなくても2階でも良いのではないかと思った。いざというときには人海戦術で輸送するという事まで考えたほうが良いのではないかと思う。

市民： 今の意見はまったくそのとおりで、要は技術ではなく、府中市がBCPとしてどうしたいかの説明がないから分からなくなっている。今は技術がいっぱいあるけど、どう想定してどうしたいかが分からないから分からなくなっている。

今日の基本設計説明会はどういう位置付けの説明会なのか。もう基本設計としてまとまりましたという説明会なのか。それとも意見をきいて更に何かするという事なのか。最初に説明がないのでよく分からなかったが、もうまとまったという事なのか。

もう一つはコンセプトとか理念に、本町と府中をつなぐとかあるが、まちづくりについて今日は説明がなかった。200億かけてこれをつくるので、今までこんなのはなく、これからもないと思うので、そういう観点から地域を活性化しないといけないし、色々なことがこれが起爆剤になっていくと思うが今日はそういう話がなかった。防災的な部署であったり計画課であったり、そういう話が次はあってもいいのではないかと思う。そういったところも含めて皆さんの家をつくりますよという熱い説明が全然ない。

市： 説明会の位置付けについては、基本設計がまとまった説明会になる。基本設計を完了させて、実施設計に進んでいるという段階で、並行して基本設計の内容を広く皆様にお知らせすること、そして同時に皆様のご意見を聞かせていただき、その意見について再検討したり、反映できるところは反映していくことを考える、という位置付けとなる。

市民： 今まで市民からはどのような意見が出てきて、何がどのように変えているか、変えたことによってコストが上がっているが、これは良い意見だと思ったので変えたとか、良い空間を皆さんに提供したいと思ったとか、そういったことはどうか。どういう意見があつて何がどうなったかを、その結果を教えてほしい。大國魂神社の横につくるには相当な制限があるが、クリアしているのか。都からどういう意見が出たが、市として説得したとかの話がないと、こうなりました、ああなりましただけの説明だと不満である。

設計者や計画課がいないと、これをつくとどうなるかとか、グリーンプラザがなくなるけれどこれをつくることによって町がこう変わっていくとか、そういう話が聞きたい。これはまちづくりである。景観的にもこうなるということを説明してほしい。市長にも各部の責任者にも伝えてもらいたい。

市： ご意見として承らせていただく。

市民： 1ページの設計の基本方針のところ、現敷地を拡張したうえで、と書いてあるが拡張できなかつたらどうするのか。

市： 市役所の建物がこういう範囲、敷地となっているが、現在地で建て替えるためにはこのような四角が望ましいという検討の結果を基本構想、あるいは基本構想に基づく整備比較検討結果で示していた。市の方針としては四角が望ましいと考えているが、この府中街道沿いの真ん中の部分については引続き交渉を重ねているという状況ではあるが、合意はいただけていない。それ以外の敷地については合意をいただいている。

市民： 今、合意がとれてないと言っていたがどういうことか。

市： それは計画地としていない部分の敷地のことである。ここは残念ながらまだ合意をいただけていないので、この部分を除いて計画しているということである。

市民： 現敷地を拡張するというのは、どれくらいの拡張なのか。今の時点でどれだけ拡張できているのか。

市： 図で大まかな説明になってしまうが、今の市役所ははなれに似たような

形で建っている。今の敷地は少しいびつな形でこのような敷地となっており、この北側のあたりを拡張させていただくということで、合意をいただいている。この部分については既に拡張していて、今現在この部分について埋蔵文化財発掘調査を今実施しているところである。この部分については個人のことになってしまうので、あまり話すことはできないが、まだ拡張とはなっておらず、現在交渉しているところです。

市民： 拡張できない場合は計画がなくなってしまうということか。

市： 合意はいただいているので、計画できるということである。

【府中市役所】

市民： 6ページの平面計画について、1階の歴史コーナーにふるさと府中歴史館の一部を持ってくるという説明があったが、全部を持ってくるのではなく、一部だけを持ってくるのか。

市： 敷地の東側にふるさと府中歴史館という建物があるが、この機能の全てではなく一部を持ってくるということで、関係部署と調整を図っているところである。歴史館については、府中本町駅に今後整備される施設や郷土の森博物館もあるので、そことの連携を図っていきながら有効的に活用していくことを考えている。

市民： ふるさと府中歴史館は建物も古く、それに今府中市内でも公共施設の維持費がかかるということで、減らしたほうが良いという意見があるみたいなので、ふるさと府中歴史館の建物は、今後更地にして大國魂神社に返したほうが良いと思う。公共施設の維持費を少しでも抑えることを考えると、新庁舎に展示などを移して、国司の館のところに一部のふるさと府中歴史館の資料室なんかも移し、今の大國魂神社のところは更地にして神社に返したほうが良いのではないかと思うので、その辺を検討していただきたい。

市： ふるさと府中歴史館について、府中市としてはご意見のとおりで、公共施設の維持管理は非常に大きな課題であり、公共施設マネジメントとして、市全体の公共施設の床面積の抑制に向けて取り組んでいる。質問のあったふるさと府中歴史館は、処分ということで方針を示している。そのふるさと府中歴史館の中にある宮町図書館と歴史展示コーナーは新庁舎に統合し、それ以外の資料室や公文書館的な機能は、新庁舎ではないが某かの集約をしていくということで、将来的にあの建物は処分する方向で市として考えている。

市民： わかった。

市民： 本日初めて基本設計の説明を聞いたので、概要はこれでほぼほぼ分かった。細部は別に分厚いのがあると思うが、中身に関してどうのこうのとは申し上げられないが、設計共同体は決まっているということで、今は基本設計ができた段階で、既にやっているかもしれないが、進め方で第三者、例えば他の設計事務所にチェックをかけるなど、建設に関してゼネコンの意見を求めるということなどをしていただきたいと思いますと思う。平成30年度以降の着工に向けて、そのあたりもこれから計画されていると思うが、違う視点の方を工事の中に入れていくなどしていただきたいと思いますという感想である。

市： 庁舎建設事業は、やはり市として一大事業となり、総事業費としてはかなりの金額で事業としても難しい事業であると考えている。特にこの庁舎建設事業では、現在地で市役所機能を維持しながら建替えるということで、通常の更地のところに建てるものより難しい作業となる。今言われたような第三者的な視点でのチェックについて、私どももこの事業に関しては必要だと考えており、先ほど説明はしなかったが、コンストラクション

マネジメントということで、建設事業に関して設計の専門的な知識を持った方にいわゆる第三者的な視点で公正・公平に技術的なチェックをかけるというようなことを最近国交省のほうで推進している。府中市でもこのコンストラクションマネジメントという手法を取り入れて、設計者と別に設計の専門的な知識を持った方に入っていて、詳細なチェックを同時並行してかけているという状況である。

市民： 18ページの設備、機械についてGHPとあるが、これが災害に対して強いのかということが気になる。また、低圧ガスの引き込みを計画しているが、これを中圧ガスの引き込みをするなどの対策を考えると、また、消化スプリンクラーが入っていないことなどが気になる。

細かいところだが、今日のところはこういった意見を確認して、基本設計の改善につなげていただければと思う。

市： 今後改善していくことになるが、実際GHPや中圧のガスの引き込みは検討を行った。中圧だとガバナーを設置して、低圧に引き下げなければいけないことも考慮し、中圧の採用はしない形で考えている。災害時のインフラについて検討もしており、ガスについては災害時に比較的被害が少ないということも分かっている。電気などもあわせてベストミックスの状態での庁舎の機能を維持していく方針で考えている。なお、災害対策について、電気については周辺道路の電線の地中化を検討しており、電柱の倒壊による被害などを避けることを検討している。また、変電所についても2箇所から引き込むような形を考えており、大規模災害時でもできる限りの対応を図っていくことを検討している。

市民： 災害時について最近一番問題になるのが、非常時のトイレだが、さきほどの説明では地震の時の色んな危機管理をやっていくと言っていた。上水や井戸水、いろいろ貯めてあるものを使ってとのことだが、非常時にはマンホール式のトイレなり、トイレの数が足りなくなったり、汚れてしまったりすると思うが、この新庁舎の敷地内である普段のトイレとは別に、非常のトイレをどこかに設置するとか、下水とつながったマンホールとかを活用するなど、そういう計画はないのか。

市： そちらについても設計者や運用する者と協議を進めており、マンホールトイレについても検討に一度あがった。マンホールトイレは、災害時の利用に関して課題もあるようで、女性が使いにくいという課題も抱えている。今回の計画については、災害時に庁舎内のトイレを使うことを考えており、普段使っているトイレを災害時にも使える形で計画している。雑排水を排水に利用することなどを考え、できるだけ災害時にも負荷をかけない形で検討を進めているところである。

市民： 災害時のトイレは心配なので検討をよろしくお願いしたい。

【生涯学習センター】

市民： 共産党のニュースを見ると、総額205億円を超える予定と市議会に説明しているらしいが、今回の資料にはそんなこと書かれてなく、建設工事費が158.8億円となっている。当初から55億円もかかっている。小さく見せて世論の支持を得て、どんどん膨らましているのではないかという点が納得できない。当初の計画では小さく見せておいてずさんな計画で市民が納得したうえでやっている。

2点目は、説明を聞いていると、観光会社みたいになってしまった感じだが、市の事務所は、住民の福祉やインフラなど、色んな地方自治法に則って行う住民の安全、衛生、福祉、暮らし、教育、文化、住民のライフラインを維持管理することという地方自治法に基づくための事務をやる場所である。説明を聞くと半分が観光会社になってしまったのではないかと思う。本来この業務は府中市だけではなくて他市も全部やっており、内容的にはレベルの違いがあっても、小さい町村でもやっている。地方で言えば県庁並みの建物を本当に市の実務をやるうえで必要なのか、本来の市の業務は何なのかという点で、もっと簡素化すべきである。

これは市議会議員から聞いたが、市議会ですべての業務をやるのであれば、他市を参考にもっと予算を少なくすることができる。聞いていると必要分より余分なところがどんどん膨らんできている。

もう一つ、防災拠点の問題でいえば、今まで何年も自治会や老人会を交えて、全国の地震から一極集中はだめだと、そこが機能しなくなったら全部パーとなり、どうにもならない。地域ごとに拠点を作っていくことは本当の防災拠点である。小学校や文化センターなど、そういうところへすぐ避難できるが、中心部は集まりにくい場所になってしまう。地域でもって住民同士の支え合いも含めた防災拠点を作っていくことが今の全国的な流れであり、市の説明でもそうになっていた。それがいつのまにか、中央に立派なこんな市庁舎をつくり、防災拠点をつくるということになっている。

3番目に、住民のアンケートで市政に要望しているもののうち、トップは高齢者福祉である。2番目は防犯風紀対策、3番目は市民の健康管理、4番目は清掃・環境整備対策、5番目は道路の整備、6番目は保育行政の充実、7番目は交通安全対策、8番目は公園緑地の整備となっていて、観光ホテル並みの市庁舎建設なんてどこにも出てこない。本来市庁舎は地方自治法に則った業務を司り、事務を行う場所であるべきなはずなのに、逸脱してしまっているのではないか。

もう一つ、市民との関係で言えば、文化センターは日常の暮らしのなかで、住民票やごみ、印鑑証明も色んな設備がついているので、ほとんど文化センターでやられているわけである。住民の声としては、文化センターでできるものはもっと広げてほしい、本庁に行くのは大変だという声が圧倒的多数である。最後に住民の声としては一斉の値上げで、4年前から教育予算はバサッと削り、色んな手数料を全部値上げし、受益者負担となっている。税金を納める者に対して、一つ一つの色んな生活していくうえ

で、必要な書類をつくるのに、受益者負担だと平気で言っている。保育だって一番低所得層に対してすごい値上げである。ほんとに住民と関係ないところに当初150億だったのが205億円となって、これからも議会への説明で膨れ上がるかも分からない。詳細設計をやったら。本当に市役所は何をやるどころなのかという点から逸脱しているのではないか。一番安いところの土地を買って、そこに事務所を作り、交通の便が悪いのは市バスで補うという形で、中心部に観光ホテル並みという説明をしていたが、そんなことは本当に本来業務なのかどうかというのは疑問になる。本当に市民の生活は大変、我々も固定資産税は高い、都市計画税はとられる、住民サービスは削られる、何のために税金収めているのかという、市民税も納めている。そのことも含めて市の本来の仕事は何なんだという点で見解を聞きたい。

市： 1点目の市議会での報告について、市議会には12月議会に同じ資料を用いて説明をしている。そのなかで205億円と言っていたが、こちらについては、基本計画で掲げる、移転や設計、土地を拡幅するために土地の購入にかかる経費というものは引き続きかかっており、質疑応答させていただくなかで、それらを含めると205億という説明をしている。

2点目の観光事務所ではないかということについて、市の考え方としては、決して今回の庁舎は他の市と比べて華美な庁舎ということでは全くなく、もちろん事務を行うところという認識でいる。ただ、府中市の場合、立地として府中駅と府中本町駅をつなぐ場所に府中市役所が従来から建っており、基本構想や基本計画、その他市議会とも議論をしながら、どの場所が望ましいのか、それと今の立地を生かし、府中本町駅と府中駅をつなぐということ踏まえて、事務を行いながらもそういった役割も同時にできるような庁舎ということで計画をしている。今回の設計者を募集するときに、公募型プロポーザル方式で33者という多くの設計会社から、基本計画で示す理念を具体化させるためにはどういう計画ができるか提案してもらった。今回の設計者の提案では、現在の敷地を拡張し、機能を維持しながら現在地で建て替えるという手順として、まずおもやを建てて、そこに移転をして、はなれを建てるということになっていた。おもやを建てる際に必要最低限の床面積に限定するが、2期工事のはなれ建設に加え、基本計画で示す駅と駅を繋げるということに関して、総合的に考えて一番合理的な方法として通り庭をつくることになっている。ただもちろん設計に当たっては、当然必要最小限の内容にしており、それぞれの条件があるため止むを得ないということで、概算事業費の見込みとしては具体的には増えてしまっているという状況である。

3点目の防災に関して、一極集中がダメというのはたしかにご意見のとおりだが、まずは一番大切な拠点として、免震構造であるとともに、必要な災害対策本部室が必要で、これに加え、準災害対策本部として外部から応援にかけつけていただくような国や都の支援の際に待機できる場所や、無線をつなぐなど、さらに準備を進めていかなければならないということで整備するものとして考えている。もちろんこの拠点が全てではないの

で、市としては並行してそれぞれの地域にもお願いしていると思うが、そういう考えで進めているのではないということをご理解いただきたい。

4点目に観光については先ほどお話したので、5点目の文化センター機能の拡充について、これに関しては基本計画を策定する際にも、やはり色々ご意見をいただいている、もちろん市としても受け止めている。ただ市の考え方として、文化センターで色々行うにも本庁舎ができないと文化センターでも行えず、現実問題としては文化センターで全ての事務を行うことは難しいということがあるため、そういったご意見を踏まえて、今回新庁舎として計画をしている。

市： 何点か補足をするが、1点目の予算の関係について、当初から50億くらい上がっているという話があったが、平成23年度に策定した基本構想では概算事業費を約150億円としており、そこからの比較だと思う。基本構想では新庁舎の形も決まっていなかったなかで、当初全国的に建替を計画している自治体の経費を勘案し、全体で設計費や土地の購入費を含めて150億円と公表している。その後、東京オリンピックの開催が決定したりして、急に資材や労務単価の高騰などがあったため、平成26年度に基本計画を策定する際にはその上昇率を想定して概算事業費を177.1億円に見直しをさせてもらっている。資材や労務単価の上昇率については、当時の他の自治体の上がり具合を参考にして設定している。基本計画の策定後、市の考え方に基づいて設計者を選定し、設計者の提案に基づき、具体的な設計を進めていくなかで、今回初めて新庁舎の具体的な造り、新庁舎の実態に合った建築工事費や解体工事費などを示させてもらっている。結局それでも177.1億円より上がっているということで、その主な内容としては、基礎が杭に変わっていることやアスベストが発見されたことによる処分費、床面積の見直しに加え、近隣住民への配慮に対して色々要望があったため、その対応に向けた費用がそれぞれ必要となるということで今回の概算事業費に至っている。

次に一極集中の話について、たしかにそういったご意見もあるが、今回の市庁舎の建替の計画を進めるに当たって、様々な市民の方のご意見をいただいていた。たしかに市役所の建替を議論する際に、今の場所で建替えるのか、別の場所で建替えるのか、あるいは分散させるのかということが一番はじめに検討している。検討協議会のなかでその議題について色々検討した結果や、現在地で建替えた方が良いという市民のアンケート調査結果などもあり、その他に色々市民の方に聞いて回っても、詳しい相談事など、文化センターで手続きをしても結局本庁舎に行かなければならないという苦勞をしている方が結構いた。それは障害者の方もそうで、そのような意見もあったので、新庁舎では一極集中にはなってしまうが、庁舎に来ていただいたことで多くの手続きを一度に済ませられるという部分を考慮し、今回の計画になっている。

また、文化センターを活用して防災の拠点を作っていく必要があるという話については、担当部署にはなるが、現在、災害対策という視点でそのような計画も検討している状況であり、今後はそのような環境もしっかり

整えていくということになる。

住民アンケートで上位が福祉や環境、交通安全となっていることについて、庁舎の建替えについては、我々も事前にアンケート調査や広報特別号を発行してそれに対する意見、あるいは市内のイベント会場に出向いて色んな方との話のなかで、今の庁舎の古い状況や災害時の防災拠点となる意味では非常に必要性が高いというようなお話もいただいていた。現在の庁舎がとにかく手狭で、職員1人あたりの平米数が他の自治体に比べてかなり狭いため、働く場所だけではなく、昔に比べて事務量や文書量が増え、倉庫も足りない状況で、昔ながらの庁舎でやっているということも考えると、今回示した延べ床が必要だということをして事前に調査を行い、今回このような形で計画をしている。将来的にそういった庁舎で職員が働かせてもらい、事務機能を効率よく進めることで先ほどの市民アンケートの要望に応えられるのではないかと考えている。

市民： 予算のことが気になっているが、資料の1番後ろに記載されているだけか。今の話を聞いていると、ずいぶん大雑把である。今オリンピックでも概算事業費で問題になっていて、金額が増えたという話を聞くと、もちろんそれなりに増えた理由があると思うので、それがちゃんと市民が納得できるように説明してほしい。具体的には、先ほどの話だと、色んな他の庁舎を調べていて、177億円を出したときには上昇率などを調べていると思う。そしたら、例えば他の自治体で同じくらいの人口のところで大体延べ床面積がここ5年くらいでどのくらいなのか、どうせ調べているのであれば、予算がいくらになっているか教えてほしい。先ほど職員1人あたりという話があったが、それもあたりだと思うし、あるいは職員が少ない自治体があるのかもしれないが、そういう具体的な数字があれば市民も納得しやすいかなと思う。どうせ調べているのだから、資料として見せてほしい。例のオリンピックの問題とは絶対違うんだということを我々も納得したい。最近府中市はお金がないと良く聞くが、それは違うのか。本当はお金は大丈夫なのか。競艇もあまりお金が入ってなかったりして、噂で府中市は昔みたいではないと良く言われるが、そのへん市の方が言えることと言えないことがあるのかもしれないが、最初の人が出した意見に対して、もう少し細かく言わなければいけないと思う。我々だってできれば納得したいと思うので、これまで調べたものをなんらかの形で資料として見せてほしい。

広報特別号で載せる予算は今回の資料に記載された内容になるのか。もっと細かいものを特別号では見せてほしい。皆さんできればこのまま納得してもらいたいわけだと思うので、そのくらいやっていたらだいたい話が違かなと思う。

市： 1点目の具体的な数値について、本日はそのような資料を持ち合わせていないため、お示しすることができない。これから実施設計を進めていくが、どういうものが示せるのか、例えば他の庁舎の事例で平方メートルの単価でいくらかかっているかなどが考えられるが、今回本市では現在地で建替えることにしているが、それぞれの庁舎で立地の条件として、現在地

で建替えるのか、そうではないのか、既存として土地を持っているのかなど色々な条件もあるため、具体的に責任を持ってお示しできるかというところがある。

市民： それでは私がインターネットで調べるので、市で調べた自治体がどこなのか教えてほしい。やはり情報がない。土地の条件などが違うんだろが、参考にしたんだから教えてほしい。何市と何市を参考にしたのか教えてもらえれば、その市に聞くことができる。

市： あくまでも目安ということにはなってしまう。

市民： 今日はなぜか資料がない。今日がないのは仕方ないが、いつもっと細かいを見せてもらえるのか。

市： 先ほどの質問について、2点目の広報特別号でお載せする金額については今回説明した金額になる。これは、基本設計での概算の見込みになり、これが工事の発注をする段階になると、当然それぞれの予算額が細かくあがってくることになるが、あくまでも基本設計時点での概算の見込みということになる。

市民： 説明会に私遅れて来たので、市からの説明が聞けなかったが、資料に記載されているのは158億と10億円である。205億円というのはここに書いていないが、どういうことか。

市： 205億円、50億円増えたというのは、平成23年度に庁舎の事業を進めるにあたって一番はじめに策定した基本構想の際に、その当時は150億円程度を見込んでいたという数字になる。

市民： でも今話聞いていると、途中で177億円になってそれから205億円になったのに、ここには205億円は記載されていない。なぜか。

市民： 市議会の特別委員会でそういう数字を出しているんだからそういう説明をしたら良い。公にしているんだから、その数字くらい早く出てほしい。ごまかすのはやめなさい。

市民： 紙で出してほしい。

市民： 27.9億円を増えたという中身をちゃんと言いなさい。概算だ概算だと言っているが、1千万円単位で出しているのだから、1千万円単位でどうして出したのか積算があるはずである。

市： 比較をするには基本計画を説明しないと行けないので、まず始めに基本計画時の金額を説明する。概算事業費の内訳だが、主に5項目に分けて計算しており、まず建設工事費が基本計画のときが128.3億円、解体工事費が8.4億円、仮設庁舎建設工事費、このなかに移転費を含めて6.3億円、設計費として設計費や工事監理をするお金、ここに設計費等として諸経費が色々入り4.8億円、土地の買収関連費が29.3億円で、基本計画時の概算事業費として177.1億円だった。

市民： 皆さん財政が厳しい厳しいと言っておいて、市庁舎の建設がどんどん膨らむのは、その厳しい厳しいと市民に言っている財政とは関係ないのか。今の説明だと3、4、5番目の項目はこの資料には記載されていない。素人が見たら、1、2項目で終わりだと思ってしまう。そうすれば今の聞くと、全部で205億ということか。

市： 先に内訳を説明させていただくが、基本設計時の建設工事費が158.8億円、解体工事費が10.0億円である。また、基本計画時は見込んでいた仮設庁舎建設工事費、これは移転費を含めたものだが、今現在仮設庁舎が建たない計画になるため2.1億円、設計費等は変わらず4.8億円、土地買収関連費も設計では関係がない話なので、29.3億円で変わらずとなっている。

市： 土地の関連費は設計とは別で動いており、もしかしたら今の見込みというのがどうかなというところはあるが、それらを含めると205億となる。

市民： 土地は一坪いくらかで買うのか。あとで分かるのか。

市： そのあたりは個人的な交渉相手あるので、市からお伝えすることができない。

市民： 増額する27億円の内訳を教えてください。

市民： 拡張する敷地は何平米買うのか。

市： 平米数については、調べてお伝えする。増額が全てカチッと収まる数字ではもちろんないが、主要な要因として5点あり、1点目が来庁舎駐車場を地下に整備したことによる床面積の増で12.2億円である。

2つ目に近隣の方や来庁者に配慮した工事期間中における防音パネルの設置や屋外機の消音対策が約1.3億円、3つ目に基礎形式を杭基礎に変更した計画の見直しが約10.1億円、4つ目に建設資材・労務単価の上昇で10.0億円、5つ目にアスベスト関連費用が3.3億円で、それ以外が主要な要因でない部分かなりの項目数あり、また、工法を変更してマイナスになっている部分もある。今のメインとなっている項目は以上になる。

市民： 足して27.9億円にならないが、誤差の分は今言っていたところか。

市： はい。減額となった項目の差し引きがあったり、設計の概算の仕方にもよるが、それ以外のところでもかなり細かい数値になるため、なかなか整理が難しいということになる。

市民： 今更こんなことってなると思うが、19・20ページのイメージパースを見ると、立ち退きしていない2軒が残っている。この家を入れた場合に景観はどうなるのか。この家はずっと残るわけだと思う。

市： 交渉はし続けようということである。

市民： この家を入れた形での景観が出てくると思う。大國魂神社側からの景観は問題ないが、反対側から見ると非常に奇妙な市役所である。つまり、この2軒の家を取り囲むような形になっていて、こんなおかしい市役所なんて全国にないのではないか。簡単に言うと、この人が出ていかないからおもやを4分の1切った形になっている。

市民： この2軒が立ち退いた後は、ここは増築するのか。

市： こちらについては、今のところ交渉は引き続き行っているが、残念ながらまだ合意をいただけていないという状況である。この計画地にするとき議会とも議論をさせていただいたが、このお宅の部分を見込まずに計画をするということにしている。

市民： メインストリートの左側にボーンと2軒あるわけだが。

市： この絵のとおりである。

市民： いろんな来庁者が見て変だ思うと感じる。もともと配置計画に無理があったと思うが、こんな取り囲むような形にしても非常に歪でかっこ悪い。大國魂神社から見えなければ良いというものではなく、大國魂神社から見えなように隠すために作っている感じに思える。

市民： メイン（府中街道側の通り庭）をこんなカッコにして両方で囲んでしまうというのは、どちらか片方に作るというのが普通ではないのか。しかし、この設計者は非常に変で両方で囲んでしまっているのも、ものすごい見てて奇妙である。だれが見てもこんなもの何故選んだのかなって思ってしまう。おかしい。

市： 計画地については、提案してきた設計者全てがどなたになろうともこういう状況になってしまうということになる。当然ご意見のとおり、我々も懸念していて、あそこの欠けた部分を諦めているわけではない。今もなお交渉を続けていて、将来的には市として取得し、その段階でどういった整備をするのかを併せて考えていかなければいけないと思っている。

市民： また予算が増えるわけですか。

市： その分の予算も入れています。

市民： 取得する計画で組んでいるんですか。地主さんは売らないと言っているのに、それで予算どれくらいなのか。

市： 売らないというわけではない。今も交渉しているところなので、そこらへんの詳細はお話できない。

市民： そしたら終わってから言いなさい。

市民： 今の立ち退きの話だが、私この生涯学習センターの関係で立ち退きをしているので、府中市が立ち退きにおいてどういう態度でいるかは良く分かっている。非常に不誠実で、うそつきである。それは公有地担当に言ってほしい。なにかあったら聞きに来いと言ってほしいが、私達ほんとにひどい目に合わされている。そういうことがもとで、今回の件や、学校の交番のところなど、皆さんへそ曲げてどかない人がある。そのため、きっちりと誠実な態度をもって臨むよう公有地担当に言ってほしい。私達はほんとにどんな嘘つかれたか。

私は東日本大震災の津波のときに大きな被害にあった岩手県大槌町に夫の実家があり、津波で町役場がなくなり、全てのデータがなくなり、総務省の施設に名前と性別だけ残った。でも結局国民健康保険や介護保険や土地のことなど全ての情報がなくなったので、ずっと市長にそういったものがなくならないように、震災というのは目に見える災害だけでないと言っている。市民の情報をいかに守るかということが大事である。そのへんがどうなっているのかがものすごい気になる。どこかでちゃんとバックアップをとっているのか、震災のあと津波でやられたところはみんなバックアップをとるようにした。今はクラウドでやっているところとか色々あるが、ハードからハードで、結局ハードの向こうがやられたらダメになるので、そこはほんとに真剣にやっていただきたい。

また、この前市役所でトイレにベッドつけてくださいと言ったが、1階のトイレの平米数はどれくらいあるのか。重度障害者用トイレと親子用トイレはどれくらいあるのか。

また、メインエントランスの正面のエレベーターは何基になるのか。なぜエスカレーターが2階までしか行かないのか。中央図書館はPFIで設計しましたが、最後の最後でエレベーターがないことがバレて後付けした。この3階のところは子ども関係の部署もあるが、ここにエスカレーターが必要ないのかどうか。あとここにも子ども関係のフルスペックの多機能トイレは欲しい。

防災について、13ページの災害時の想定在館人数が職員900人、市民100人となっているが、府中市は地域防災に関してものすごい危機感がなく、シミュレーションがひどい。あそこに市役所が出来たら皆なだれ込んでくる。防災課が今ぼけているから、ほんとに危機感がない。もう少しきちんとシミュレーション検証したほうが良いと思い。発災時には市庁舎に人が殺到することが目に見えている。もう一回シミュレーションしないと混乱招くし、死ぬ人が出る。府中市はほんとに防災に関する危機感が全くない。これに関してはもう一度考えていただきたいと思うので、お願いしたい

市： 1点目の用地に関して、公有地担当に申し伝える。

2点目の津波でデータがなくなったということで、そのデータはどうなっているかということについて、市の考え方としては、まず、建物を免震構造にして水害のときにも対応できるようにするということがある。これに加え、市では重要なデータをバックアップとして遠隔地にとぼしてデータセンターのほうで保存・保管をしていて、万が一に備えている。

メインエントランスの先のエレベーターについては、2基配置しており、一番詳しい資料としては16ページに記載しているとおりで、1基は26人乗りでストレッチャー等が入るほどの十分な広さのエレベーターを予定している。

5点目のエスカレーターについて、1階から2階までしかなく、3階までないということは私どもも色々と検討を行った。市議会でもご質問はいただいたが、基本的には今回建物が低層であるということと、3階の子ども関連部署で一番大変なのはベビーカーを押している方になる。ベビーカーの場合、エスカレーターに乗るといのはやはりなかなか難しいことになるため、エスカレーターについては1階と2階で利用していただき、エレベーターの方の利用想定を少なくするという形で取り組んでいる。2階と3階も繋げればもちろん望ましいが、この部分もやはりVEのように、必要性を総合的に勘案してこちらが最適であろうということで計画している。

6点目の防災の関係について、基本的には市の考え方としては、庁舎は避難場所ではないということが大前提となる。想定人員としては働いている職員を900人としており、災害発生時の来館者数については、1日を通して考えると絶え間なく人が来るため多いということがあるが、発災時

の在館者数の平均として、これくらい見込んでおけば大丈夫ではないかという想定在館人数となっている。

最後になるがトイレの面積について、重度障害者用のトイレをつくる計画をしており、横になれるスペースを計画をしている。基本設計の段階になるため、細かい数値はまだ確定をしていないことになるが、概ね7～8㎡くらいを検討している状況である。

市民： 4㎡あれば折りたたみベッドのついたフルスペックにできる。そのへんを研究していただきたい。

市： 先日、肢体不自由の重度障害者の方に直接お越しいただき、今現在の我々の考え方と実際の使われている方の感想や意見交換を直接やりとりさせていただき、その内容を含めて検討している。

市民： しつこく言うが、観光情報センターのベッドについて、重度障害のお子さんを持つ方々がトイレの床にブルーシートを敷いて着替えをするということが非常に人権侵害であるということに周りの人が気がつき、保護者が一緒になって動いて、今は亡き中島信一さんに直訴して作ってもらった。あのベッドひとつでも障害がある人にとって人権を守るということであり、高齢の方にとってはそこで身づくろいをするということになる。ぜひとも新庁舎に1箇所が良いからほしい。オストメイトについてもこんなものいらないのではないかというのもあるが、オストメイトを使う方のために新庁舎にぜひとも一箇所でも良いからオストメイトをつけてほしい。

市： オストメイトは一箇所以上計画しており、障害者の方への対応として、肢体不自由や重度障害でなかなか動けない方、視覚障害の方、聴覚障害の方、それぞれの団体の方にこういった機会を設けており、そこで色々意見交換しながらより良い庁舎をつくっていきたいと思っている。引き続きそういう団体の方と意見交換をしていく。

市民： 予算について、21ページには備品購入費は別途とあるが、これが揃わないと市役所の機能にならないわけで、それがどれくらいかかるのかが除いてあるのはおかしいと思う。机についても今までの古い備品を全部使うのかも含めて、どういうことを考えているのか。

また、南口再開発ビルで市が購入した床は内装が2億円ということで新たに金額がついたが、今回の金額には内装は入っているのか。下手したら入っていないのではないか。こういう計算ではやばいと思う。内装はあとから20億円かかりましたというものがどんどん出てきて、それが先ほどの方が意見したようにいつの間にか膨らんでくるというのがあるので、その2つは少なくともここで明快な回答をいただきたい。

また、これは話してみても分かったんですが、なぜ2棟方式なのか。さらに残されている2軒、それはそのうちなんとかなるみたいなことを軽々しく言っているが、とんでもない話である。これを除いて作るべきであった。これがもうあるということで作ったら、これだけ囲み、これはこの家に住んでいる人に対して人権侵害、いじめである。そういうことを府中市がしていいかということが問題であり、こんな形の土地があるのもおかしいが、人の動線が東と西でぶつかり合う、柵形になっている。これはちょ

うど昔のお城であり、敵が攻めてきたら、そこでストップさせ攻撃するというよくある枱形の格好である。どうしてこうなのかなと思ったが、災害時にはみんながワッて来て入れるようにするにはおかしいと思う。人が入れないようになっているんだなと思ったら、先ほどの話ではこれは避難所ではないという説明があり、災害時は市民が来てもらっては困るという考え方である。そういう考えであれば、市民があまり入ってこないような枱形のL字形の極めて人が通りにくいような格好にしているということが理解できた。最初に戻ると、2棟方式にするからこういうことになってしまうのであって、やはり1棟でしっかり作るということはどうしてしなかったのが疑問である。

市： まず備品の関係については、なかなか今の段階ではお示しできないということになる。備品の購入はこれからしっかり計画をつくっていくことになり、設計がしっかり固まらないと量がまず出ないということと、既存の備品と新しく買う備品というものの計画を適宜市議会に報告をしながら検討していかなければならない。

市民： 金額が増えるのではないか。何十億かかると思う。

市： 備品購入がかからないということはないが、備品購入費は別で考えている。これは基本計画のときから既に別で見込んでいる。

市民： 見込んではいっても、かかるものはかかる。

市： 2点目の内装が入っていないのではないかということについては、こちらは入っている

3点目の2棟方式の理由について、先ほど少し触れたが、設計者を募集したときから計画地をこの形状で進めるということで進めており、2軒の方にはそういったことも伝えながら進めている。2棟方式の理由としては、33者の設計会社から提案があったが、内容は千差万別でどういう方法が考えられるのか、非常にレベルの高い提案のプロポーザルだった。すでにここに今の庁舎があるため、この庁舎を生かしながら敷地の中で建替えるというプロセスが33通りあり、例えば、一つには仮設を建てて、移ってその仮設を壊してまた入る、もう1個仮設を建てるなど色々なことが可能性として考えられた。そうしたなかで、今回選定した設計者と協議をして、おもやとしてまず最低限の床面積を建てて、そのあと既存庁舎を解体して、そこにもう一度建てるというプロセスが最も合理的でかつ設計の思想的にも合うのではないかということになった。この通り庭が繋いでいるという役目と同時に、災害時には、例えば資材置き場として受け入れることができるという考えで設計を進めている。動線については、この部分の通り庭はかなり幅があるため、ぶつかるということはあまり想定されないと考えている。

市民： いくつかの基本的な視点で質問する。ひとつはこの庁舎を建てたときに、向こう何年間持たせるものなのか。そのときに例えば100年間の場合、同時に維持メンテナンスがどうなっているのか。公共施設の問題で維持費が大変だと問題となっているわけなので、維持費が少なくできるような配慮をどうするかという観点から、この2つの数字をぜひ出していただ

きたい。

もう1つは、政府の長期的な建物に対する考え方が色々変わってきており、エネルギー基本計画ということをご存知だと思うが、2020年度を目途に大規模のビルについては、いわゆるゼロエネルギービルという考え方を標準にしておくという考えが進んでいる。基本設計ではキャスビーの取得を掲げているが、実際にはこの基準では間に合わなくなってしまう。しかもあと100年も持たせようとし、逆に100年後に恥ずかしくない建物にしようとする、当然長期的な視点で反映していかなければいけないため、ぜひ政府のエネルギー計画、ゼロエネルギービルという考え方に沿って、環境計画を見直していただきたい。

具体的には、ガラスがペアガラスになっているが、おそらくトリプルガラスになっていると思う。また、エネルギーの有効利用としては、地中熱を使うという考えがでてきており、地下を深く掘るため、一緒に重ね合わせて100年後に恥ずかしくない設備にすべきである。今回の計画はちょっと急ぎすぎで、今度の議会でこの基本設計が案ではなくて決まりましたと、次が詳細設計に入りますというペースではまだまだ検討が足りないと思う。ぜひこういう案を出したわけなので、一般市民からちゃんとパブリックコメントを求めて、それに対する回答をちゃんとして、そのなかでこの計画そのものをもっと市民の声を生かして見直していくぐらいの考え方がないと、向こう100年持たせる建物であるため、そう簡単にやってもらっては困ると思った。

もう一つ、この前も言ったが、議会のこの建物の形だが、市民に議会が身近に感じると書いてあるが、傍聴が常にできるガラス張りにして、控え室が見えるとか、委員会室が見えるというようなことを実際に考えて欲しいと思う。これだと傍聴席が1箇所しかないの、委員会をやっている様子が、市民が歩く、外から見て分かるというぐらいの開かれた緊張感のある議会にしていきたいということを考えている。

市： 1点目の向こう何年間ということについて、やはり100年間というのは最近言われており、それはコンクリートの関係であったりするが、今の設備機器が100年間どうなるのかというのは、なかなか現実問題、今の技術では難しい。今考えられるものとしては、可変性や更新性について、例えば、発電機などもかなり重たい大きいものは、古い建物だとなかなか更新できないと聞くが、これから機器の選定があるが、計画上もそういったことも盛り込んで更新性を担保するというので、100年後に恥じない建物を建てたいと考えている。

ゼロエネルギービルについては、設計と協議するなかで当然意識をして協議をしているが、やはりこれもまだ考え方の走りで、技術的にはこれだけの規模になるとなかなか難しく、実現には至っていない。そのなかのガラスがダブルではなくトリプルになる、あるいは地中熱ということがあるが、地中熱の採用についても検討を行ったが、100年間で長い時間にかけてコストをかけないというところもあるが、例えば、地中熱の導入も経費を試算したところ、地中熱でランニングコストを賄ったとしても到底賄

いきれないようなイニシャルコストの金額が出ている。それでも環境の面から配慮して導入するという考えももちろんあるが、イニシャルを抑えなければいけないことを念頭にしつつ、ただ長期的に環境にも資する施設ということで、やはりそこはバランスを見ながら、イニシャルも必要なところはかけるが、課題のところでは今の段階では見込みはなかなか難しいというものについては残念ながらこの段階では採用できないかなという取り組みで進めている。

もう1点、議会のガラス張りについて、庁舎の設計に当たっては市議会とも定期的に委員会でお話させてもらいながら、別途議会のあり方というものも議会側で色々と検討していただいております、見える化というものを意見交換している。現状の設計ではガラス張りまでは至っていない状況になっているが、ディスプレイで例えば議場の放送であったり、委員会の中継だったりするものを建物としては想定をしてできるようにしておきたいと思っている。ただこれは議会での議論も別途あるもので、この場ではなかなか申しあげられないという状況である。

パブリックコメントについては、申し訳ないがこの段階では考えておらず、12月議会に市議会に対してご報告をさせていただき、基本設計としては完了させていただいている。

市民： 先ほど杭の件で、良い地盤が上のほうにあったという話があったが、杭になったということがなかなか理解できなかった。

また、はなれ4階に防災危機管理課があるということだが、4階にはあるがおもやにはないので、もしなにかあった場合にそこが孤立するのではないかなと懸念を持ってしまい、本来はおもやのほうにあったほうが良いのではないかと思う。実施設計に当たっては位置をもう少し検討していただきたい。

また、駐車場に柱頭免震があるが、駐車場には燃えるものがたくさんあるので、もし火災などが発生した場合に、合カバーをしているだけで良いのかどうか。被害が想定できない車なので、火災が起きた場合に、そこに影響して本体の安全性に影響しないかが気になる。建物と地球との動きが違うため、そこでギャップが出るかもしれない、カバーの部分で脱落するなどいろんな問題が考えられると思う。17ページに記載してあるようにエキスパンションのフタがあると思うが、1階は床でフタがあるわけで、これがかなり動くと思う。入口のところでそういうトラブルが起きたときに不安を抱くのではないか。それに対してもう少し普通の建物ではない防災拠点なので、実施設計でなにか考慮していただければと思う。

市： 1点目の杭について、支持層といういわゆる堅い層の上に乗っけて建物を支えるということになるが、本来直接基礎、この建物の下を直接支持層に乗っけることが一番望ましいと考えており、一部の調査地点では丁度良い所に一番堅い支持層があったというところがあった。しかしながら、複数箇所調査をしてみると、支持層があったところに一部分だけ支持層が上のほうに浅くなってしまうことが分かり、そうなるとその部分についてはその支持層を抜けてしまうこととなる。次の支持層がかなり下にな

ってしまい、その支持層に届くためにはやはり杭の基礎で堅い支持層のところまで支持をしないとイケないため、想定より逆に浅いということでそれを突き抜けて支持層が必要だということになる。

2点目、3点目の防災危機管理課について、市長室と最も密接に関連しなければいけないということで、近くに配置しているが、ご意見のとおりブリッジをまたぐことになっている。ただ、この建物は免震構造で一体として計算をしており、ブリッジも免震層のうえで揺れることになるため、揺れ方も模擬の地震動という法定のものや、この地域でいうと立川断層帯地震というものがかなり特色のある振れ幅の大きい地震もあるため、余裕度検証と呼んでいるが、余裕をもって検証して構造的には脱落することは決してないと今考えていて計算している。ただ、いま言われたようなブリッジのカバーや柱頭免震のカバーの耐火というものは、そこまで基本設計では具体的には話をしていないため、実施設計を進めるうえで参考にさせていただき、設計者としてしっかりと協議していきたいと考えている。

市民： 市役所は防災の拠点だけど避難所ではないことについて、私はずっと東松島市にボランティアに行っていて災害支援活動を行ってきたが、もし被災した市民が市役所に来たらドアを閉めて追い返すのか。そうすると、いざというときに防災拠点という被災した市民を追い返すところのために税金は使いたくない。今さらもう議会も通って何言っているのかということかもしれないが、被災地では防災拠点と言われているところが被災してしまって、子どもが亡くなったりしたこともあり、その時にここは防災センターで避難所ではないという、いわゆるマニュアルで対応しているところは、どこも亡くなっている。そうでないところは助かっている。市の命令でここには被災者は入れないのか。

市： 当然そういった場合に、市役所に入れないという選択は全くない。避難場所としては指定はしていないということで、一番望ましいのは、避難場所が全て整っていて市民の皆さんに全て周知されていて速やかに皆さんが避難できるということがあるが、現実問題としては混乱しているなかであるため、市役所に来ることもあると思う。計画としては一時避難場所として指定はないということで説明したが、決してそんな血も涙もない市役所ではないので、そうした場合には対応させていただく。

市民： じゃあある程度100人くらいは収容できるくらいにしてほしい。

市： そういうことも含め、多目的スペースやロビーに避難していただき、冬の寒い時期に電気がないということがないようにしている。混乱時にどういう風にできるかということはあるが、それを前提に設計ということではないが、建物として対応できるようには念頭において考えている。

市民： 今更色々言われてももう基本設計でできないことと、できることあると思うが、我々としては色々意見が出て、ただ聞き置くというのはちょっと嫌なので、これはもう応えられないなど質問状を出したら返事をもらえるか。これはもう今更無理、これは考慮しますなど答えてほしい。

市： そういったことは対応可能だと思う。

市民： それでは、質問状でこれはどうですかみたいな形で出したら、お答えい

ただけるということか。どちらに出せば良いのか。

市： 基本設計でこれから対応できるかできないかということか。組織としては政策課庁舎建設担当といいまして、東庁舎の4階に事務室がある。私が全て席にいるわけではないが、例えば電話をいただければ対応させていただく。

市民： 紙で出しますので、紙でいただきたい。

市： 分かりました。

市民： もう市議会を通っているんですね。

市： 通ったと言うか、報告をして委員会ではご了承をいただいている。議決は法律上の話だが、議決を求めるという行為はあるが、このことに関しては報告をさせていただいて、ご了承をいただいている状況である。例えば、実際に工事を発注するときには議決をいただかないと工事の規模的にはできないが、そういうことではなく、市議会に適宜報告させていただいて意見交換しながら進めている。

市民： 反対の声もあったでしょう。反対の声があったと言いなさい。

市： 失礼しました。反対するお声もいただいている。

市民： 了承じゃないのか。

市民： きちんと全会一致ではないと言ったほうが良い。

市： 全員の方が了承したわけではない。最後に委員長がこの委員会として了承して良いかという風に話をして、了承されたが、その中で1人1人のご意見として私は了承できないという方もいたということになる。

市民： 防災のことで自治会や老人会には、広域震災時要支援対象者という府中市に申請して府中市から我々のところに来るが、見守り活動やりなさい、それで障害を持っている人は文化センターで対応するという基本の考え方は言っているが、全然受入られるような状況は作られていない。バリアフリーの問題にしる、なんか本庁だけ立派なものができる、じゃあ府中市全体も防災拠点はどうなっているんだと、その府中市の説明は東京都の基本方針が決まらないとできないという言い方で、現実的にはすごい数の自治会や老人会に要見守りの人がいる。車イスや自分で食事を作れない、また、家族と同居していない、要支援でもって生きている、そういう人達の救済について立派なこと言うんだったら、そういうことも合わせてきちんと説明してもらいたい。市庁舎を防災拠点といたら、全部が市庁舎に集合できるわけない。

市役所に関しては身の丈に合うものは、財政はいくらでも膨らんでもやらなければならないという必要性があるのであれば、それは市民に言わなければならない。説明するたびにどんどん変わって、一方は文化センターの利用料は有料化すると言われていたり、駐車場も有料化すると言われており、一方では受益者負担でどんどん使用料や値上げがあり、一方で市庁舎建設では湯水のようにお金が膨らんでいくということも市民の中には納得できない人も大勢いる。本来市役所はどうあるべきか、予算はいくら膨らんでも良いから立派な日本一の市役所を建てること、お金があれば良いが、お金のことも含めて、一方で膨らませて、一方でどんどん削るという

ところの整合性を考えていただきたい。

市： 1点目の防災について、防災の細かい運用について担当課がどのようにお答えしたか分からないが、そういったご意見があったことを申し伝えたいと思う。

もう1点の受益者負担、駐車場の有料化について、市の方針としてあるが、当然庁舎建設事業の概算事業費が湯水のごとくいくらかかっても良いというわけではなく、そのあたりは十分配慮してそういう心情に配慮しながら説明していきたいと思っている。

市民： さきほど環境に配慮したということでこれは賛成だが、こういう建物を建てる場合は、旧庁舎の場合は年間でエネルギー消費量がどれくらいでした、今回この建物を建てるのとどれだけ減りますということを普通は書くことになると思うが、なぜ書いていないのか。どれくらい改善されるのか、数字があるはずなので教えてほしい。エネルギー消費量で良いので、トータルで何十年でみるか。たぶん設計者が出していると思う。

市： 基本設計では考え方を示す段階となり、実施設計のなかで機器の選定など具体的なところが進むので、実施設計が完了した段階でお示しできるのではないかと思う。

市民： それは提案のなかで出てくるのではないか。私が今非常に気になっているのが、エネルギー消費量としては2棟に分けたほうが当然たくさん使ってしまうわけで、たぶん設計者としては色んな配慮をしており、たぶんそれを説明しているはずである。そういう話で良いので、一体どのくらい減るのか、あるいは逆に増えるのか、それを知りたい。単にペアガラスを使っているという話ではダメである。あなた方のほうも試算していないんですか。

市： 具体的な数字という提案があったというわけではなく、今回、例えば日射の話で言うと、ガラスの話があったが、Low-e ガラスを使いつつ、有孔パネルを使いながら直射日光を防ぐことで建物内の空調の負荷を低減させるとともに、大國魂神社が隣にあるということでその冷たい空気を取り込むことを考えると、1年間通して空調を使い続けるのではなく、時期によっては風を取り入れることをして全体の空調の負荷は抑えられるはずだという話も聞いている。

市民： 実施設計のときに市としては、設計にエネルギー消費量これくらい下げようという設計をしてもらわないと困るというようなことは言わないのか。大雑把な数値も出していないのか。

市： これから細かいところになるが、何割というところまではいっていない。

市民： 述べ床面積が33,000㎡で結構あると思うが、配置を見ていると相当会議室がたくさんあり、こんなにいいのか。ほとんど使われない庁議室など色んな部屋があったり、議会もこんなに委員会室のスペースをとる必要があるのかなど、色々ある。総務省基準によって、一人当たりどれだけのスペースにするということによって決まっていると思うが、いわゆる会議室については、全体の何㎡くらいあるのか。こんなに会議室がたくさんになる

ことはないと思う。

市： 会議室については、実際今の庁舎でどれくらいの規模の会議室がどれくらいの頻度で開催されているということを一年間通して我々のほうで調査を行った。そうすることで、無駄な会議室、あるいは会議室が足りないということを解消できると思っている。他の自治体も視察していると、そういう調査をしないで大体の一般的な基準で設置したことで、会議室が足りなくなってしまったり、執務室が狭くてもっと増やさなくてはいけないという事例も見受けられ、そういうことを避けるために事前に調査をして、簡単な2・3人で職員だけで行う打合せというのは執務室のなかの打合せスペースで行い、それ以外にしっかり市民も一緒に交えた個室でできない会議室がいくつ必要かを調査して、それに必要な会議室を今設定している。ただ、将来を考えて、将来人口が減ることによって業務が減って職員が減るのかどうかというのはまだ分からないところで、人口が減ったとしても高齢者の数が増えて事務的には増えてしまう、国や東京都から事務が降りてきたときに、その分の職員が増える可能性もあり、実際今福祉部門の職員も足りないと言われているなかで、そういう場合に備えて会議室を執務室に部分的に替えられるような意味も含め、若干の余裕をもって設計している。

会議室の面積については、今現在の市役所の会議室は、市民参加をしていただいて市役所の職員だけでなく、一般の市民の方と一緒に会議をするということが非常に増えており、今現在の市役所と第2庁舎を合わせまして、1, 320㎡くらいある。これを先ほど申しあげたように調査を1年間通して行いまして、今の純粋な会議室の見込みとしては、1, 200～1, 300㎡程度あり、それ以外に会議室に転用できるような例えば庁議室なども含めるともう少し増えるが、現状としては会議室の面積についてはできる限り必要最低限、調査に基づいて必要なところに絞っている。なぜ面積が減っているかと言うと、会議室の規模の適正化ということで、今大きな会議室がいくつもあるが、その会議室を実際はもう少し少人数で使うことが多いなど、そのような適正化を図り、会議室を少し増やすが床面積はできるだけ抑えるという考え方で取り組んでいる。

市民： 平成29年10月に実施設計を完了することになっているが、実施設計案ができたときには必ずパブリックコメントを求めて市民の声を聞いてほしい。今の話だと、例えばエネルギー収支計画については詳細設計をしないと出てこないという話で、実際に最初のもくろみの実現できそうかどうかというのは、実施設計をしないと分からないわけなので、その段階では必ず市民にパブリックコメントを求めてその声を生かしながら、やっていくくらいの工程を庁舎担当としてはぜひお願いしたい。今の考え方を受け入れていただけるかを教えていただきたい。

市： 今のところまだそういったスケジュールを決めておりませんので、ご意見をいただいて今後検討させていただくというような回答になる。

市民： 検討ではなく、内容をよくするためには必要なのではないか。

市民： 完成するまで内容が分からないという話になると思う。

市： 実施設計は詳細設計になりますので、これまでも色々基本計画を作る段階からもこのような説明会など色々な場面で色々なご意見をいただいている。パブリックコメントもハガキを使って400件くらいの意見をいただけてきており、その中に設計に関する意見もあったため、それを踏まえて今回基本設計を完成させている。そういう意味ではそういった意見を頂戴していることになるが、こういう場でまだそういう意見があつて、これから先の実施設計に反映できるというものは当然検討していくべきだと思っているので、そういう対応を考えています。

敷地の平米数について回答が遅くなったが、北側の部分を拡張するが、以前北側には市の職員用の駐輪場があつたが、そこは市の土地でしたのでそれ以外の部分の面積は、約3,500㎡になる。